

6月の新着本

6月12日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

小さな神たちの祭り	内館 牧子	谷川晃は宮城県南部の町・亶理のいちご農家の長男。家業を継ぐ気はなく、東京の大学に進学することに。2011年3月11日は、アパートの契約などのために上京していた。その間、晃を除く家族全員が津波に吞まれてしまい、8年経っても誰一人まだ見つかっていない。大学卒業後、東京で就職するも志半ばで仙台に戻った晃の目には、人々がすっかり震災のことなど忘れてしまっているかのよう映っていた。そんな晃を支えてくれたのは、恋人の岡本美結。しかし、晃は家族のことを考えると「自分だけが幸せにはなれない」と、美結との結婚にも踏み出せないでいた。そんな時、二人の前に1台のタクシーが現れる—。
灰の劇場	恩田 陸	私は確かにその二人を知っていた。もっとも、私はその二人の顔も名前も知らない。始まりは、三面記事、これは“事実に基づく物語”
生かさず、殺さず	久坂部 羊	がんや糖尿病をもつ認知症患者をどのように治療するのか。認知症専門病棟の医師・三杉のもとに、元同僚で鳴かず飛ばずの小説家・坂崎が現われ、三杉の過去をモデルに「認知症小説」の問題作を書こうと迫ってくる。医師と看護師と家族の、壮絶で笑うに笑えない本音を現役医師が描いた医療サスペンスの傑作。
おれたちの歌をうたえ	呉 勝浩	真っ白な雪と、死体。遠ざけたはずの過去— 40年前のあの日、本当は何があったのか。いまになって届いた友からの謎かけが、元刑事の魂を、揺り動かす。長野県上田市と松本市、そして東京を舞台に紡がれる暗号ミステリーは、40年の時を経て、真実へとひと走る。友情をあきらめなかった男たちの物語。
花束みたいな恋をした	坂元 裕二	あなたは思い出しますか？二人で過ごしたあの部屋と時間を、ベランダからの景色を、川辺の帰り道を…。すべての恋の思い出に捧ぐ、珠玉のラブストーリー。
その扉をたたく音	瀬尾 まいこ	ミュージシャンへの夢を捨てきれないまま、怠惰な日々を送っていた宮路。ある日、演奏に訪れた老人ホームで、神がかったサクスの音を耳にする。吹いていたのは、ホームの介護士・渡部だった。「神様」に出会った興奮に突き動かされた宮路はホームに通い始め、やがて入居者とも親しくなっていく…。人生の行き止まりで立ちずくんでいる青年と、人生の最終コーナーに差し掛かった大人たちが奏でる感動長編。二〇一九年本屋大賞受賞作家が贈る、たしかな希望の物語。
星に仄めかされて	多和田 葉子	世界文学の旗手が紡ぎだす国境を越えた物語の新展開！失われた国の言葉を探して地球を旅する仲間が出会ったものは—？
人は話し方が9割 1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ	永松 茂久	もう会話で悩まない。疲れない。オロオロしない。口下手でも、あがり症でも、大丈夫！楽しく会話できる「とっておきの秘訣」が満載！
家族の味 【スタッフおすすめ本】	平野 レミ	はじめて料理を作った思い出から、和田誠さんとのなれそめや子育て方針まで、家族と料理への愛情がぎゅっと詰まったエッセイ集。29品のオリジナルレシピに加え、夫・和田誠さんとの対談、阿川佐和子さん、清水ミチコさんとの鼎談も収録。
メイド・イン京都	藤岡 陽子	結婚に迷った末、選んだのは「ものをつくる」という生き方。三十二歳、女子の「恋」「起業」「ものづくり」。『手のひらの音符』『きのうのオレンジ』で話題の著者による新境地。
魂手形 三島屋 変調百物語 七之続	宮部 みゆき	江戸は神田の袋物屋・三島屋で行われている風変わりな百物語。「語って語り捨て、聞いて聞き捨て」が原則だが、従妹のおちかから聞き手を引き継いだ富次郎は、語られた話を墨絵に描き封じ込めることで聞き捨てとしていた。美丈夫の勤番武士が語る、摩訶不思議な力であらゆる火災を制す神器の真実「火＝太鼓」。馴染みの団子売りの娘が打ち明けた、一途な愛が引き起こした悲しき事件「一途の念」。木賃宿に泊まったお化けの復讐譚「魂手形」。三人の語り手の物語と、三島屋に届いた慶事の報せをきっかけに、富次郎は自らの行く末に思いを巡らせていく—。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

なお次回新着本は、8月14日(土)より貸出しいたします。

※諸事情により、NHKテレビテキスト「きょうの料理」は令和3年4月号をもって配架を終了させていただきます。